

しまい山谷に来ることになる、昭和40年から。山谷の方が釜ヶ崎より単価がよい。トビだからかなり高いところのぼったが、これまで一番高いところは、千葉県柏の高圧線の鉄骨、170米にのぼった。しかし高いところが必ずしも賃金が良いとはかぎらない。ビルの柱を打ち込む重量トビなどはそう高いところに登るわけではないが賃金はよい。現在の自分は1カ月の平均収入6〜7万、貯金なし。競輪、競馬にゆく。住民登録、取得資格なし。内妻があるが、今はベッドで1人ぐらし。今望むことは体を治すこと、一時埼玉県春日部の病院に入院していた。山谷から出てどこかアパートでも借りたい」。この人の話をきいている間、のぞき込んだりしている中年の男がいた。話をしてもよいというので、たのんだが、お礼のタバコは先に受けとったが、他の人に1コやり「あの人間からとれ」といい、あまり真面目に答えない。ひじょうになげやりな感じ、調査は充分にとれない。「今日はつかれて休み。昨日は直接会社へ行った。建設のねぎりと片づけの仕事、山谷から2〜3人行った。8時〜5時で交通費向う持ち。昭和2年三重県に生れる。父親は雑貨商。高等小学校卒業後、大阪で工場につとめ、雑役工。そのあと製材工場(従業員20名)で製材の仕事。ここで昭和20年から40年まで20年間働らく。ここが倒産したため山谷に来る。山谷に来てからは飯場以外に行ったことなし。これまでに十回ぐらい飯場に行った。一番最近行った飯場は都内の飯場で、6月から7月の2カ月間、賃金は食ぬき(食事は別ということ)の3,000円。仕事はねぎり、1人あたり量数は1.5枚、労働者約10人がこの飯場にいた。離婚、現在個室に住んでいる。住民登録、取得資格ともなし。貯金なし。競輪、競馬にゆく、酒は3合から飲むときは1升ぐらい。持病は高血圧だ」。この間いかにも答えるのがおっくうそう。「誰か別の人にたのめ」と三度もいう。不十分ながらも取り終えたが、こういう聴取りは、本当に疲れる。ドヤに帰る。7時半頃松崎さんが尋ねてくる。このドヤに決定した件を報告。3人で食事後ドヤに帰り、3人で一杯やる。松崎さん11時半頃帰る。12時半就寝。

※ここまで清書し、原稿を編集部へ渡そうと考えている時、突然われわれの調査に一貫して惜しまぬ協力を与えてくれていた、松崎紀夫氏の急死の報に接した。この場を借りて心から同氏のご冥福を祈る次第である。

【所 報】

第16回所員総会は、昭和45年12月17日午後1時半より、私学共済湯島会館において開催された。総員66名のうち、出席者18名(その後7名増加)、委任状20名にて成立。江沢所長あいさつのち、議事に入った。

I. 事務局活動報告

1. 望月事務局長一般報告——前総会(6月6日)いらい約半年間の社会科学研究所の活動をひとことで要約すれば、特定研究「日本の近代化」が4年間にわたる文部省の研究助成の終了ののち、研究成果のとりまとめと成果刊行の基本的な見とおしを立てたこと(「近代化」メンバー総会。11月21日)、および今年度より発足する新しい特定研究「産構研」(本社研内部での非公式略称)がこれへのとり組みの根本方針と概括的な年次プランを決定して活動を開始したこと、この二本の基幹共同研究が重なりあい交錯しあいながら、今後数年間における社研の歩みを方向づけた点にある、と言えよう。もっとも、おのおの20数名の所員を包括する大研究であるだけに、そのあおりをくって、社研を求心的に結集してきた本来の共同研究——定例研究会・グループ研究を核とするそれ——に独自のエネルギーを十分に賦活せしめられなかったことを自己批判すべきではあるが、学界全体を展望しても、この半年間のはかの大学紛争期の空白を埋めるための内部蓄積につとめた時期であって、わが社研もその例外ではなかったはずである。この蓄積を開花させるための諸条件はいま相対的に良好と思われる。所員各位の協力のもとに、着実な歩みを進めてゆきたいと念願する。

2. 事務局各部報告——(イ)編集部(玉城哲代表)より、編集部体制についての一般的報告のあと、『社会科学年報』第5号の編集の進捗状況の説明が行なわれた。既報のとおり、「1920年代の法と社会」を基本特集とし、それに書評等からなる小特集「帝国主義の諸問題」をくみ合わせる。第4号で好評の対談には、わが国民法学界の長老勝本正晃氏(本学の元法学部長)にご登場を願う予定である。(ロ)定例研究会委(西岡幸泰代表)からは、7月6—8日の湯河原合宿研究会を含めて五回の定例研の経過報告があった。今期は定例研での報告発表を快諾された方々がほかにも数名おられたのに、日程の都合がつかず残念ながら見送った、という点が特徴的である。(ハ)文献資料委(正村公宏代表)より、予算執行状況について報告がなされた。こんごの重点は、定期刊行物のラックの補充におき、また新特定研究の資料購入と密接な連係をとりつつ文献を揃えてゆく、との基本方針が示された。なおその席で、現在所蔵し継続購入している定期刊行物の一覧を作製配布されたいとの要望を採択した。(ニ)財政委(宮下誠一郎代表)より、昭和45年度予算使用状況報告書の説明があった。諸物価の上昇のもとで運営が急速にひばくの度を加えつつある、という基調において逐項の説明と質疑応答がなされたあと、報告を承認した。

II. 新特定研究「産業構造変革」(公式略称)の推進について。

[7月2日の社研全体会議において、研究代表・江沢譲爾所員のほか、代表幹事を西岡幸泰、会計幹事を鍋島力也、渉外幹事を玉垣良典の各所員にそれぞれ委嘱し、文献資料および「研究報」編集は、社研事務局の該当部局の代表が兼担することとした。その後9月12日の幹事会(事務局長を含む)で「産構研・同センター」の略称を決定した。]

西岡代表幹事から、7月2日の社研全体会議から12月10日の来年度研究計画調書提出にいた

る期間の内部経過報告および、7月18日の全国研究代表者会議（東大社研）、11月7日の関東地区連絡会議（同上）、12月5日の全国研究代表者会議（京大人文研）における方針決定の様子の説明が行なわれた。全体としては、かなりハイペースな業績具体化が求められていることが指摘され、これにいかに対応してゆくかを課題として提起した。そのあと、予算執行状況および購入設備（電子複写機リコピーBS-2を中心とする）の利用状況、今後の研究計画、研究推進にあたっての諸問題の説明があった。「研究報」は「社研月報」の特集号形式とし年度内三号発行とすること、問題別研究ランチを発足させること、文献購入の長期計画を立てること、などをその主要な内容とする。質疑と討論ののち報告を承認した。

Ⅲ. 特定研究「日本の近代化」の研究総括について。

〔「近代化」事務局幹事・加藤幸三郎所員が同日開かれた「近代化」全国研究代表者会議に出席中のため、同代表幹事吉沢芳樹所員が報告にあたった。——事務局注〕

吉沢幹事より、前記11月21日のメンバー総会および12月10日の社研事務局・「近代化」幹事会合同会議の決定を基礎として、これまでの経過の総括報告、会計報告、研究成果のとりまとめの見通しについての説明が行なわれた。基本方針としては、48年秋までには論文を集約して刊行にもってゆくこと、そのほかに可能ならば加藤佑治所員が手がけてきた戦時物動計画関係資料を資料編として出版すること（文部省刊行助成金を申請して）、社研事務局内部に「刊行成果委員会（仮称）」を設置して事務処理にあたること、などが考えられるとの報告がなされ、満場一致で承認された。

Ⅳ. 所長および各部部长改選。

ついで所長改選選挙に入り、江沢譲爾所員（現所長）を満票（白票1）で再選。また部長改選選挙では、理論部門・内田義彦、実体部門・大友福夫、歴史部門・森下澄男の各現部長が再選された。任期は各職とも昭和46年4月より二年間。

Ⅴ. 新事務局長委嘱。

江沢所長より、望月現事務局長の後任として加藤幸三郎所員を新事務局長に委嘱したいとの要請があり、投票の結果、満場一致で信任された。

Ⅵ. 新所員紹介。

島崎晴哉氏（兼任講師・中央大学経済学部教授。社会政策・労働運動史専攻。）

<編集後記> ようやく年をあけて早々に87号を刊行できるはこびとなった。さる一年は月報の刊行がままならず定期発行に苦しんだが、この一年は所員各位の御協力を得て順調な月々の刊行ができることを期待している。厳寒の折から皆々様の御健康を祈るや切である。（M）

神奈川県川崎市生田 4764

専修大学社会科学研究所 電話(044) 91 7131 [内線63]

(発行者) 江 沢 譲 爾